

経済学部商業学科通信教育課程

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部商業学科通信教育課程の理念は明確であり、メディア教育などの「教育のオープン化」をさらに進められたい。また、今後はその質の改善に取り組むということであるが、その展開に期待したい。

また、在学期間の短縮化、離籍者の軽減、成績判定の公正性の確保などが中期目標あるいは年度目標に述べられているが、今後の具体的な対応を求めたい。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

経済学部商業学科は、幅広い年齢層、多様な学問的関心、様々な入学動機などに応えられるカリキュラムを提供すると共に、実社会で通用する問題発見能力と課題解決能力を養うために、授業内容の充実化と授業形態の多様化に努めた。まず、授業内容の充実化については、カリキュラムツリーとカリキュラムマップを通信教育部ホームページなどで公開し、経営学・商学、会計学・ファイナンス、経済学、および情報・統計学などの専門科目の位置づけと相互関連性を明らかにし、通学課程の教育内容との一体感が一層強く意識できるように努めた。

授業形態の多様化については、HOSEI2030における「教育のオープン化」と歩調を合わせ、学習利便性の高いメディアスクーリングの量的・質的拡充に努め、一定の成果を挙げることが出来た。実際、2018年度経営学部専任教員担当のメディアスクーリングでは、24科目を設置し、その内23科目を開講した。この数値は、前年度に設置・開講した21科目に比べ堅調な増加となっており、2018年度通信教育部全体の開講目標科目数70科目（その内、本学科目標科目数16科目）の達成に大きく貢献できた。なお、メディアスクーリング科目の新規開講と合わせて振り直しによる質の向上も図られた。

2018年度商業学科の出願者と入学者数は直近3年度に比べ増加傾向にあった。在学期間の短縮化と離籍者の軽減の課題については多少の改善が見られたものの、更なる努力が必要である。学務委員による通読判定と各担当教員による成績評価の際、公正性の確保に努めた。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部商業科通信教育課程では、幅広い学生に対応できるカリキュラムが提供され、その内容についてはホームページ等で適切に公開されている。また、学習利便性の高いメディアスクーリング科目の堅調な増加は教育のオープン化を一層進めていると高く評価される。在学期間の短縮化と離籍者の低減については、改善が見られたものの、今後の推移を見極めながら慎重な対応が期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

商業学科は通学課程で提供している教育内容と同様な水準の学習が出来るよう、毎年の授業編成においてバランスの取れたカリキュラムの提供に努めている。また、各担当教員は、多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生のために学習方法の工夫にも力を入れている。更に、商業学科は職務経験を有した教員が少なくないため、より実践的な学習内容を提供している。

商業学科は、通信学習および各種スクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間と終日3日間の夏・冬期スクーリング、夜間開講の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間を行うGWスクーリングとその形態は多様である。通信教育部の重点目標であるメディアスクーリングの拡充に向け、商業学科は、2018年度には24科目を設置、その内23科目を開講した。さまざまな学習ニーズを持つ学生に多様な授業形態を提供している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 学習ニーズの高いメディアスクーリング科目を拡充すると共にその学習内容のアップデートをも行った。</p>		
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムツリーの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-tree.pdf 法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムマップの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-map.pdf 		
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 卒業単位124のうち専門科目は82単位であるが、その構成は選択必修科目が20単位、選択科目は62単位となる。専門科目については、経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮している。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献する人材を育成するための授業科目を体系的に配置している。現に商業学科は、日本の通信教育課程において、体系的な経営学の教育を実現した学科の1つとなっていると言える。</p>		
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/#menu 商業学科カリキュラムツリーとカリキュラムマップ 『学習のしおり』2019 		
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。		
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> Web 学習サービスによる授業計画管理 学習ガイダンス（事務ガイダンス、卒業生による体験ガイダンス・相談、教員による学習指導、教職ガイダンス）による履修指導 		
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信教育部学習環境・サポート制度 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/ 『法政通信』、各年月号 		
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>※取り組み概要を記入。 通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを利用し、直接担当教員の指導を受けることが出来る。夏期・冬期スクーリングにおいて「通信教育部生のつどい」を実施し、学生間、教員と学生間での情報交換を行う場が設けられている。Web 通信学習相談制度を利用し、学習計画、レポート作成、試験対策について通信教育部の卒業生による学習指導を受けることが出来る。</p>		
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信教育部学習環境・サポート制度 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/ 『法政通信』、各年月号 		
1.3 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。		
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての通信学習・スクーリング学習科目のシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているか学務委員が確認を行っている。 レポートや筆記試験における不正行為の有無については、基本的に個別教員の判断に委ねるが、不正行為が発覚した場合は、経営学部教授会にて厳正な処分を行い、通信教育部学務委員会とその情報を共有する。 他大学、専門学校、本学通学課程からの編入学生の既修得単位の認定は、事務と連携し、学務委員が通読判定の際、厳正に対応している。 		
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・法政大学通信教育部商業学科 Web シラバス	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級判定は、卒業判定と併せて経営学部教授会にて審議を行っている。 ・成績分布、学生アンケート、レポート提出数、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等のデータは、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告し、情報を共有している。 ・在学年限を超えた学生の再入学について学務委員が公正な審査を行っている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>商業学科の学習分野は多様であることもあり、その学習成果の測定については、すべての科目のシラバスに適切に記載する必要がある。商業学科の学務委員二人は、シラバスに成績評価の方法と基準について不明確な記述がないか、シラバス第三者確認を開講時期に合わせて順次的に行っている。スクーリングの最終試験、レポート添削や単位修得試験などによって、学習成果の把握は適切に行われている。レポートや卒業論文などの学習成果物に対しては、経営学部教授会等で不正行為防止用ソフトウェアの利用を科目担当教員に促し、学習成果の客観的な評価に努めている。成績分布等のデータは通信教育学務委員会を通じて教授会に報告されている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学通信教育部商業学科 WEB シラバス 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>原則的に、個別学生の学習成果については修得科目の状況やその成績によって把握している。通信教育科目はレポート添削に加え、単位修得試験によって学習成果を測定している。スクーリング科目は、授業参加度と授業最終日に実施する最終試験でその成果を測っている。とりわけ、メディアスクーリング科目においても、最終試験に加えて中間レポートを課すなどし、学習成果の向上に努めている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の出願許可について学務委員の判断が難しい場合があり、医学的知識を有する専門家と連携した対応が求められる。 ・商業学科の通読判定の際、志望動機・学習希望分野などについての自筆のエッセイに基づいて判定を行っているが、設問を設けるなどにして入学希望者の能力を測定できる制度的補完を検討することもあり得る。この場合、通信教育部の定員充足という長期的課題をも視野に入れた、バランスの取れた制度設計にすべきである。 	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

経済学部商業学科通信教育課程では、通学課程と同水準の教育内容を提供するとともに、多様な社会経験や学習ニーズ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

を持つ学生のために、バランスの取れたカリキュラム体系をとっている。2018年度には、学習ニーズの高いメディアスクーリング科目が拡充され、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。また、専門科目については、経営学、会計ファイナンス、商学に関連する領域を広く履修できるよう配置され、商業学科としてカリキュラムの順次性、体系的性が担保されている。

②教育方法に関すること (1.2)

経済学部商業学科通信教育課程の学生の履修指導は、Web 学習サービス、および各種ガイダンスを通じて適切に行われている。教員による学生の学習指導は、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に行われている。また、夏季・冬季スクーリングにおいては、「通信教育部生のつどい」など教員と学生間での情報交換の場が設けられている。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.4)

経済学部商業学科通信教育課程の成績評価と単位認定の適切性については、学務委員がシラバスに基づき、第三者確認を行うことにより適切性を確認している。成績分布、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等の状況は、通信教育学務委員会が把握し、教授会に報告することで、情報が共有されている。学習成果の評価はスクーリングの最終試験、レポート添削、単位修得試験によって具体的に把握されている。また、不正行為防止用ソフトウェアの利用によって客観的な学習成果の評価に努めるよう教員に周知されている。

III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的	
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。	
	年度目標	通信学習科目と各種スクーリング科目をバランスよく配置することによって、いつでも、どこでも学べる機会を提供する。	
	達成指標	通信教育課程主任と学務委員を中心とし、通信教育学務委員会と経営学部教授会が連携を取りながら、教育理念と目的の達成について検証を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		前年度に引き続き、商業学科のカリキュラムは通信学習科目とメディア・スクーリングを含むスクーリング科目が適切に配置されている。	
	改善策	引き続き、受講者と社会のニーズに応えるカリキュラムの構成に努める。	
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化	
	年度目標	通信教育課程主任と学務委員を中心としたシラバスの第三者確認を入念に行う。また、シラバスの成績評価基準が適切に運用されているか授業改善アンケートなどで確認する。	
	達成指標	成績分布などの各種データと授業改善アンケートと通信教育学務委員会での検討内容を踏まえ、単位修得が厳正に行われているか検証を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		通信学習、メディア・夏季・冬季・地方スクーリングのすべての科目について学務委員によるシラバスの第三者確認を入念に行った。事務課と連携しながら学部教授会等にて学習課程・単位取得の状況について確認を行った。	
	改善策	引き続き、学部執行部と連携を取りながらシラバスの第三者確認と学習課程の確認を行う。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実	
	年度目標	通信教育部商業学科のカリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムを提供する。とりわけ、通学課程と同一水準の教育が受けられる方向性の下で、カリキュラムの構成に努める。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	成績分布などの各種データと授業改善アンケート結果に基づき、通信教育学務委員会と連携を取りながら、経営学部教授会で検証を行う。また、2019年度開始予定の経営学部新カリキュラムと歩調を合わせたカリキュラムの提供を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	商業学科のカリキュラム・ツリーとポリシーを作成し、通信教育部のウェブ・ページ、学習ガイダンスなどにて学生に周知活動を行った。専任及び兼任教員の専門性を考慮し、通信学習科目とスクーリング科目をバランスよく提供した。
		改善策	2019年度開始する経営学部の新カリキュラムと歩調を合わせるためのカリキュラム提供について今後更なる改善を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。	
	年度目標	各種スクーリング科目の充実化に努める中で、とりわけ高いニーズがあるメディアスクーリングの拡充とその質の改善に取り組む。	
	達成指標	通信教育課程の重点目標でもあるメディアスクーリング科目の拡充に努める一方、適宜撮り直しを行うなどの方法でメディアスクーリングの質の改善を図る。その他の各種スクーリングについても担当教員の配置が適切に行われているか、経営学部教授会などで検証する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		S	
理由		2018年度経営学部専任教員担当のメディア・スクーリングにおいては24科目が開設され、その内23科目が開講された。この数値は、2017年度の開設・開講科目21科目に比べ堅調な増加となっている。メディア・スクーリング科目の新規開講と合わせて撮り直しによる質の向上も図られた。	
	改善策	引き続き、使用期限を迎えるコンテンツの改定を含め、新規開講を進めていく。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。	
	年度目標	在学期間の短縮化は通信教育課程の共通課題でもある。学生の学習環境を配慮しつつ、学習ガイダンスなどを通じて学習プランについて立ち入った指導を行う。レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで学習成果の把握に努める。	
	達成指標	成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		参考データとして今年度の前期生と後期生合計の卒業率と進級率をみると、前年度に比べ概ね改善が見られた。とりわけ、卒業率(卒業者数/卒業判定対象者数)は18.25%(119/652)であり、直近4年間の12.5%~15.3%に比べ増加傾向が堅調であった。	
	改善策	引き続き、在学生・卒業生アンケート、授業改善アンケート、学習ガイダンス・アンケートなどからの要望を把握し、学習ガイダンスなどにて学習意欲の維持及び学習支援に努める。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。	
	年度目標	離籍者の軽減は通信教育課程の共通課題でもある。学生の途中離脱を軽減させるために、各担当教員がレポートの書き方指導の徹底化や学習意欲を高めるための更なる工夫を行う。	
	達成指標	2000年度以降商業学科の離籍率自体は、通信教育部全体の離籍率に比べて高いわけではないが、計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		現時点で2018年度本学科の離籍率データは確定していないが、直近2~3年度は微小ながら低下傾向にある。学務教員による年2回の学習ガイダンスにて学習プランについて指導を行うと共に在学期間の延長審査に当たり厳正な対応に努めた。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善策	引き続き、各種アンケート結果などから学生の要望を汲み取り、学習意欲を促す学習指導を行う。通信教育部共通の改善点でもあるが、学習サポート制度（学習ガイダンス、Web 学習相談、学習質疑など）に対する認知度向上に努める。
No	評価基準		学生の受け入れ
7	中期目標		定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標		定員充足は通信教育課程の共通課題でもある。学務部教学企画課と密に連携をとりながら、通信教育部ホームページのコンテンツ充実化に協力すると共に、入学相談・学習ガイダンス・授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的には商業学科の評判の引き上げを目指す。
	達成指標		商業学科が、在籍者数基準では 2014 年度以降、入学者数基準では 2007 年度以降に、通信教育部の先頭に立っているが、引き続き、入学者数などの中長期的な推移を検証していく。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		2018 年度商業学科の出願者と入学者数は直近 3 年度に比べ増加した。	
改善策	引き続き、事務課と連携しながら広報活動に努める。入学選考の際には、通読判定に慎重を期しながら入学者の選考に当たる。		
No	評価基準		教員・教員組織
8	中期目標		教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。
	年度目標		経営学部専任教員の協力を得ると共に、新規採用の教員にも通信教育部での講義担当について了解を得る。
	達成指標		通信教育課程主任と通信教育学務委員を中心とし、通信教育学務委員会と教授会が連携を取りながら、科目担当教員が適切に配置されているか、検証していく。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		通信学習科目とスクリーニング科目、その内とりわけ「経営学特講」に専門性を考慮した教員の配置が行われた。	
改善策	引き続き、通信学習科目とスクーリング科目間のバランスの取れたカリキュラム構成に努める。		
No	評価基準		学生支援
9	中期目標		不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。
	年度目標		試験中の意図的な不正行為だけでなく、レポート・卒業論文の作成時に不本意に剽窃などが行われないよう、不正行為防止案内冊子の配布、授業・学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。
	達成指標		通信学習と各種スクーリングにおいて授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		学務委員による年 2 回の学習ガイダンスにて不正行為防止のためのきめ細かい指導を行った。	
改善策	引き続き、前期・後期における 3 ステップの学習ガイダンス、学習のしおり、ウェブページにて不正行為防止のための周知活動を行う。		
No	評価基準		社会連携・社会貢献
10	中期目標		社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標		多様な学習ニーズに応えるために、開かれた姿勢で学生を募集し、卒業生と在学生の繋がり場の強化していく。
	達成指標		2013 年度から開始された本学科と大原学園間の併修協定について、引き続き継続を検討する。またこのような企業・団体との社会連携を発掘し、積極的に取り組む。卒業生による体験談

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	障がい者の出願に際して、学務委員は事務課と連携しながら数回の面談を行うなど、開かれた姿勢での対応に努めた。また、本学科と大原学園間の併修協定の更新が行われ、大原学園から SNS による本学科の紹介があった。
	改善策	障がい者の出願審査の際に、志願者の学習能力について専門家による医学的な所見が必要な場合があるため、引き続き事務課並びに学生相談室と連携しながら対応する。

【重点目標】

カリキュラムの充実化を図ると共に、高いニーズがあるメディアスクーリングの拡充と、その質の改善に努める。メディアスクーリングの科目によっては、理論の著しい発展、制度の変化、国際情勢の影響などにより、過去のコンテンツが陳腐化している可能性があるため、必要に応じて適宜撮り直しなどの対策を講じていく。すなわち、メディアスクーリングの量的・質的充実化に努める。

【年度目標達成状況総括】

専任及び兼任教員の専門性を考慮し、バランスの取れた通信学習科目とスクーリング科目の提供に努めた。また、2018 年度経営学部専任教員担当のメディア・スクーリングにおいては 24 科目を開設し、その内 23 科目を開講した。この数値は、前年度に開設・開講した 21 科目に比べ堅調な増加となっており、2018 年度通信教育部全体の開講目標科目数 70 科目（その内、本学科目標科目数 16 科目）の達成に大きく貢献することができた。なお、メディア・スクーリング科目の新規開講と合わせて撮り直しによる質の向上も図られた。

【2018 年度目標の達成状況に関する大学評価】

2018 年度目標は適切に設定され、ほぼすべてについて目標を達成している。2018 年度経営学部専任教員担当のメディアスクーリング科目において、通信学習科目とのバランスに配慮しながら、前年度の 21 科目に加え 23 科目が開講され、通信教育部全体の開講目標科目数（70 科目）の達成に大きく貢献しており評価できる。通信学習、メディア・夏季・冬季・地方スクーリングのすべての科目について、学務委員によるシラバスの第三者確認が適切に行われており評価できる。

IV 2019 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムの提供に努める。
	達成指標	授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。経営学部新カリキュラムと歩調を合わせたカリキュラムの提供に努める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
	年度目標	ICT 技術の著しい発展に伴う学習方法の変容は必至であることを認識すると共にメディアスクーリングの拡充とその質の改善に努める。
	達成指標	メディアスクーリング科目の開講や再収録について教授会などで周知する。その他の各種スクーリングについても担当教員の配置が適切に行われているか、経営学部教授会などで検証

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	学習ガイダンスなどを通じて学生の学習計画について立ち入った指導を行う。担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。
	年度目標	学習ガイダンスにての指導のみならず、各担当教員にも、レポートの書き方指導の徹底化や学習意欲を高めるための更なる工夫を呼びかける。
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握する。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	通信教育部ホームページのコンテンツ充実化に協力すると共に、入学相談・学習ガイダンス・授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的には商業学科の評判の引き上げを目指す。
	達成指標	商業学科の入学者と在籍者数は学科単位としては最も多いが、引き続き、中長期的な推移を検証していく。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。
	年度目標	専任及び兼任教員の専門性を考慮し、バランスの取れた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携を取りながら、科目担当教員が適切に配置されているか、検証していく。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。
	年度目標	最終試験の際の不正行為のみならず、レポート・卒業論文の作成時に剽窃などが行われないよう、各教員による指導を徹底する。不正行為防止案内冊子の配布、学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるために、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在学生の繋がり場を強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心掛ける。
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
<p>【重点目標】</p> <p>まず、今年度も引き続き、学生の受講希望の高いメディアスクーリング科目の拡充とその質の改善に努める。次に、兼任教員と経営学部専任教員の専門性を考慮し、通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムの提供に努める。この際、今年度から始まる通学課程の新カリキュラムの方向性と歩調を合わせるために、通信課程のカリキュラムツリーとカリキュラムマップのアップデートを検討すると共に、バランスの取れた授業編成に努める。</p>		

【2019 年度中期・年度目標に関する大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

重点目標は、2018年度に引き続き、メディアスクーリング科目の拡充と質の向上としており、適切に設定されている。また、2019年度から始まる通学課程の新カリキュラムの連携により、バランスの取れた授業編成によるカリキュラムの充実が期待される。出願者数や入学者数の増加、離籍率の低減については、今後の推移を慎重に見極めながら適切な対応が期待される。

【大学評価総評】

経済学部商業科通信教育課程では、通学課程と同水準の教育内容を提供するとともに、多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生のために、経営学、会計ファイナンス、商学に関連する領域を広く履修できるようバランスの取れたカリキュラムが提供されている。2018年度は、学習利便性の高いメディアスクーリング科目が拡充された。

学習指導は、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に行われている。また、夏季・冬季スクーリングにおいて、教員と学生間での情報交換の場が設けられていることは興味深い。学習成果の評価は、スクーリングの最終試験、レポート添削、単位修得試験によって具体的に把握されている。成績分布、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等の状況は教授会を通じて情報が共有されている。

通信学習、メディア・夏季・冬季・地方スクーリングのすべての科目について、学務委員によるシラバスの第三者確認が適切に行われており、成績評価と単位認定の適切性が担保されている。

2019年度から始まる通学課程の新カリキュラムとの連携やメディアスクーリング科目の質の向上により、カリキュラムの一層の充実が期待される。一方で、これら科目の質の評価をどのように行うか、今後の検討に期待したい。

出願者数や入学者数の増加、離籍率の低減については、通信教育課程というシステム上、困難であることは予想されるが、学習指導方法の充実や学生受け入れ時の選考方法などを総合的に検討し、今後の推移を慎重に見極めながら適切な対応が期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。